



長野県No.1 のもも・ネクタリン産地を守ろう！

◆生育状況について

1. J A管内 川中島白桃

	発芽	開花	満開	落花
平年	3/25	4/13	4/20	4/28
令和7年	3/26	4/14	4/20	
令和6年	3/31	4/12	4/18	4/25
令和5年	3/14	4/ 2	4/ 9	4/15

◆生育状況と当面の重点作業について

1. まだ凍霜害は、危険な時期です。報道・情報・指示により万全な対策を実施する。
2. 凍害の発生状況を確認する。発芽等は、貯蔵養分で動き始めるが、凍害に遭った樹は、弱樹勢になっていき、ひどい樹は枯死にいたるので、6月頃までは樹体をよく観察する。
3. 低温障害、落蕾症の発生もあるため、自園の状況をよく確認する。
4. 結実状況を確認し、予備摘果を進める。※前回情報No.3参照。
5. ネクタリンの袋かけは第5回の薬剤散布終了後から行い、5月末頃迄に終了させる。
風当たりの強い圃場では、肌荒れが出やすいので外周だけでも早めに行う。
6. 初期生育を良くし、樹勢や玉肥大向上の為、かん水は重要になる。
この時期は平年並みの降水量でも不足する時期となるため、降雨が少ない場合は15日程度に30mm程度又は10日程度20mm程度のかん水を積極的に行なう。
7. 灰色かび病対策。果柄部にがく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の元となる。
結実よく、摘果が遅れると特に目立つため、除去を徹底する。

◆葉面散布肥料を有効に活用しよう

以前配布した「葉面散布肥料・特殊資材の使い方」を参考

1. 総合的な品質向上対策として、アミノ酸等のケルパック66、友果、オルガミン等を利用する。
2. 葉健全化や光合成能力向上として、マグネシウム（苦土）のビックマグ、グリーントップ70等を利用する。
3. 今後はマンガン欠乏の発生が見える時期になるとなる。
毎年発生がある園は、発生前からの5月以降にグリーンデイズ・硫酸マンガンを利用する。

【もも薬剤防除】

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月10日（土）～14日（水） 散布日 月 日
2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
固着性展着剤アピオンE	66ml	—	—
トランスフォームフロアブル	50ml	カイガラムシ類・アブラムシ類	7日
コロナフロアブル	250ml	うどんこ病・黒星病	—
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	21日

【ネクタリン薬剤防除】 ※もも・ネクタリン混植園

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月10日(土)～14日(水) 散布日 月 日
2. 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	—	—
トランスフォームフロアブル	50ml	カイガラムシ類・アブラムシ類	3日
コロナフロアブル	250ml	うどんこ病・黒星病	—
マイコシールド	66g	せん孔細菌病	28日

【第5回薬剤散布 もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

3. 散 布 量：10a当り⇒450ℓ以上
4. 散布上の留意事項
 - ①アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000 倍(水 1000 当り 33ml)を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、ボルドー液調合後に混用する(凝固するため)
 - ②コロナフロアブルに代えて、イオウフロアブル 500 倍(水 1000 当り 200ml)を使用してもよい。
 - ③せん孔細菌病対策として、第5回・6回の中間で、展着剤ササラ 3,000 倍(水 1000当りに 33ml) + クプロシールド 1,000 倍(水 1000当りに 100g) + クレフノン 100 倍(水 1000当りに 1,000g)を特別散布してもよい。ただし、白く汚れやすいので周囲への飛散に注意する。

◆徒長枝になる新芽の早期掻き取りについて

主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長果枝・中果枝の基部10cm内の直上芽は、強勢な徒長枝となって無駄なエネルギーを使い、樹形を乱し良品生産を阻害する。

摘果作業に合わせ早めに掻き取り処分することが大事。結実量が少ない場合は、特に新梢管理に留意する。

◆予備摘果の時期と方法(一般的基準)について

1. 満開後20日頃になると、生理落果する果実は果面の一部が茶緑 色になり生気を失う。満開後30日頃までに自然落果する。
2. 受精果(落果しない)は、がく片が基部から離れ萎びてくる。
3. 予備摘果時期が遅れると果実肥大効果が少なくなり、果柄が硬くなり取れにくくなる！！
4. 予備摘果を始める時期の目安は、結実良好品種(白鳳、あかつき、なつっこ等)は、満開後20日頃(5月中旬頃)から。
5. 結実不安定品種(川中島白桃、秀峰等)は、満開後30日頃(5月下旬頃)からにする。川中島白鳳は最後にする。

※以上は、凍霜害被害等の無い通常事の目安です。結実量が特に少ない場合は、樹勢調節と生理落果の抑制のため予備摘果を減らす。

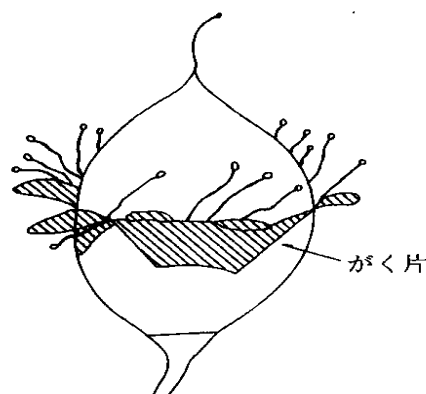
6. 着果量と着果位置

1) 仕上げ摘果の倍の量が基準

- ①長果枝(30cm以上)⇒中央から先端に4～5果
- ②中果枝(30～10cm)⇒先端側に2～3果
- ③短果枝(10cm以下)⇒先端に1果

2) 留意点

- ①本摘果の倍量を残す。
- ②大きくて扁平な果実を残す。
- ③小さい果実、奇形果、病害虫被害果を落とす。
- ④同節に2果着生しているものは1果にする。
- ⑤葉芽がある果実を残す。
- ⑥側方から下向きの果実を残す。
- ⑦主枝や亜主枝上の果実や結果枝の基部の果実は落とす。



受精果は、果実が肥大してくると、がく片が基部から離れ萎びてくる。

受精果

◆せん孔細菌病の春型枝病斑・灰星病を除去しよう！！

落花期より春型枝病斑の発生が散見されている。園地により、状況が異なるが、果実被害に至ると、商品化率に大きな影響を及ぼし、収量に影響するため、甚大な被害にならぬよう、対策を徹底する。

1. 春型枝病斑と葉への感染症状の特徴

①春型枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

※枝先端に花腐れ・枝枯れしているものは、灰星病の可能性も高いが、せん孔細菌病である事もある。

いずれの場合でも、剪除は必要。

②葉では、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。



◆仕上げ摘果及びせん孔細菌病・灰星病対策講習会の開催について

下記の日程により講習会を開催致します。都合のよい会場にご参加下さい。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
5月12日	月	午前 9:00	南原 杉山一男様園	松橋
		午前11:00	今井公民館裏	松橋
		午後 1:30	北原 飯島いえ様園	松橋
		午後 3:30	河島茂雄様園	松橋
5月13日	火	午前 9:30	松代 五明秀樹様園	伊藤
5月14日	水	午前 9:00	本町 林今朝広様園	松橋
		午前 9:30	小森 宮本芳樹様園	外谷
			本道 宮沢雄彦様園	根津
		午前11:00	上組 島田栄一様園	外谷
			梵天 小山慎吾様園(昨年と同じ会場)	根津
			平井組 大屋俊一様園	松橋
		午後 2:00	中沢 北村政一様園	外谷
			青木島 小山博様園	根津
5月15日	木	午前 9:00	阿弥陀堂 内村司様園	松橋
		午前 9:30	西寺尾杵淵火の見	外谷
		午前10:00	川田 若穂宮農資材センター南側	寺澤
		午前11:00	西寺尾 倉田健治様園(旧西寺尾支所集合)	外谷
			今里公園集合	松橋
		午後 1:30	四ツ屋公民館前	松橋
		午後 3:30	川中島・荒屋 風とみどりの会園(昨年と同じ会場)	松橋
5月16日	金	午前 9:30	東横田公民館	徳武・外谷
		午前11:00	塩崎小学校南東 石川のぶい様園	徳武・外谷